

第26回豊田市市政顧問会議＜公表用＞

【日 時】令和7年10月21日（火）午後3時30分～5時

【場 所】豊田市役所 南73委員会室

【出席者】会 長 奥野 信宏 （公益財団法人名古屋まちづくり公社
名古屋都市センター長）

副会長 三宅 英臣 （豊田商工会議所 会頭）

委 員 石川 尚人 （あいち豊田農業協同組合 代表理事組合長）

委 員 大橋 一之 （愛知県労働者福祉協議会 豊田支部長）

委 員 高村 伸一 （豊田市区長会 会長）

委 員 長谷川 喜代美 （日本赤十字豊田看護大学
公衆衛生看護学 教授）

市 長 太田 稔彦

副市長 辻 邦恵

副市長 鈴木 学

- 【次 第】1 開会
2 新任委員あいさつ
3 会長・副会長選任
4 会長あいさつ
5 市長あいさつ
6 意見交換 「テーマ：中部圏広域行政と豊田市のまちづくり」
7 閉会
-

【意見交換テーマ】中部圏広域行政と豊田市のまちづくり

○奥野会長（テーマに関する説明）

- ・中部圏の社会経済は依然強いが、拠点性は弱まっていると感じる。また、新型コロナからの回復が他の地域と比べて少し弱いと感じる。
- ・その要因は、「東京や九州、大阪への人口流出の加速」「外国人労働者と観光客の伸びが他の圏域と比べて弱いこと」「労働吸収力が弱くなってきていること」の3点。航空産業の撤退など今後の大規模産業の立地が不透明であることも大きい。

- ・日本のスタートアップの取組は、アメリカや中国と比べて40～50年ほど遅れている。国内では名古屋が遅れていると言われることもあるが、県の取組などを引き続き遂行していけば他の圏域を追い越せると期待している。
- ・ロボット産業は今後の産業の柱として期待されるが、中国やアメリカが非常に力を入れており、国際競争は激しい。
- ・国土形成計画で閣議決定されているのは「スーパーメガリージョン構想」と「日本中央回廊」。東京・名古屋・大阪が一体となった日本の成長の牽引を目指している。
- ・日本の人口は、将来的にはヨーロッパの主要国並みの7,000～8,000万人規模で安定すると予測。
- ・当面の鍵を握るのは外国人労働者の出生率。国内の外国人居住者の割合は増えており、20～30年後には10人に1人が外国人の社会になる。
- ・地域生活圏は人口10万人程度が基準。「行政区域にとらわれない生活圏」「デジタルの活用による収益の確保と事業の持続」「民間企業が主導する官民連携」の3点がポイント。
- ・地域づくりではNPOの役割が非常に重要。順調に増え、社会的な信用もできて社会になくてはならない存在として根付いてきた。一方、一般的にNPOは広域連携が苦手であり、情報や資金力も脆弱。後継者問題など持続性に課題があることも多い。
- ・こうした弱みを補うのが、民間企業が主導するCSV（共通価値の創造）型の官民連携だと思う。CSVは、企業の本業に生かしながら社会貢献に取り組んでいくことが特徴であり、近年非常に盛んになってきた。

※CSVの先行事例として、伊那市と三重県「美村」の取組を紹介

○主な意見

- ・リニア開通により、名古屋は新大阪を大きく上回る人口移動圏を持つことになり、極めて大きな可能性を有する。
- ・リニア開通により、名古屋中心の移動圏が拡大し、豊田市にも大きな変化が訪れると見ている。
- ・リニア開通を見据え、ヒト・モノ・カネ・情報が関東・関西へ流出しないよう、豊田の独自の魅力強化が必要。
- ・今後は「ものづくり」と「観光」の二本柱で発展を図るべき。観光のランドマークは点ではたくさんあるが、その活かし方を話せる人は少ない。また、道路整備も進む中で、リゾート施設の整備などの発想があってもよいのではないかな。
- ・豊田市の産業の対極として「緑豊かさ」があり、今後のまちづくりでは農業と自然

を生かした環境整備が重要。

- ・工業・住宅・農地・山地が混在しており、雑然とした印象がある。ここに「農業」を絡められるとよい。
- ・農業や緑を活かした住みよいまちづくりに投資することで人口増加や子育て促進につながる。産業や工業と同程度の投資を緑豊かな地域に行うことで、よりよいまちになっていくと思う。
- ・中心市街地に住民が作った農産物の情報発信や販売の拠点があるとよい。農ライフ創生センターの研修生の話では、ものが売れた時の嬉しさは例えようがないとのこと。
- ・農業では高齢化と担い手不足が深刻であり、これまで実施していた農業体験事業が地元の人手の問題で打ち切りとなった例もある。
- ・農業ブランド「ミネアサヒ」など地域資源の維持に向けた人材確保と機械化の両立が課題。
- ・豊田市の公共交通機関について、名古屋方面には名鉄や愛環鉄道があるが、横方向の移動は難しく、地域交通の強化は課題。
- ・豊田市駅前東側がとてもよくなった。特にビルとビルの間に人が集まれる空間が設けられていることは素晴らしい。
- ・美術館や博物館などの文化施設への市民来訪が少ない要因のひとつは、駐車場の不足ではないか。車社会に合わせたアクセス改善などの環境整備が必要。
- ・「モネ展、エジプト展の来場者のうち市民は2割」と紹介があったが、「市外から8割も来場があった」という成果として評価できるのではないか。
- ・豊田市内に自動車の新工場建設の話題があるが、生産は自動化が進んでいる。かつては全国から豊田へ人が集まったが、今は地方の人口減少によりその流れが弱まっている。また、外国人労働者の増加について、為替の影響などにより海外と比べた給与水準の魅力が低下している面もある。
- ・他市では企業・労働組合などと連携し、処遇改善や働く魅力向上に向けた研究会を設けている事例があり、参考にできるのではないか。
- ・将来の成長にはロボット・ドローンなどの新技術を活用した産業拠点づくりを検討してもよいのではないか。
- ・ロボットによる労働力補完は有効だが、中小企業では導入の壁が高い。産業全体での支援策を期待したい。
- ・地域住民と関わる中で、自治会や老人クラブなどの活動継続が困難になっているという声も聞く。リーダー層の高齢化や後継者不足により地域のつながりが希薄化し

ており、活動を休止する例も増加している。地域のつながりが失われると、災害時の要援護者支援や日常の相談機能が低下する懸念がある。

- ・特に高齢者や車を運転しない住民にとっては、公共交通の不足が生活上の大きな課題。
- ・地域の方のつながりを世代交流のような形でつくることについて、連携して取り組めるとよい。
- ・今後は豊田を中心とした西三河一体での協力体制が重要ではないか。豊田・岡崎・知立・安城・刈谷のエリアが一体となり、この地域全体をどう発展させるかは日本全体の中でも重要な関心事である。

(以上)